

メンテナンスについて

無垢木材のお手入れ方法は、表面に施されている塗装の種類(浸透性塗料とコーティング系塗料)によって異なります。ご利用の商品の塗装をご確認の上、下記の案内を参考にしてください。

		浸透性塗料で仕上げたフローリング[1]	浸透性塗料で仕上げたフローリング[2]	コーティング系塗料で仕上げたフローリング
塗装の種類		<ul style="list-style-type: none"> ● Arbor植物オイル ● Arbor蜜蝋樹脂ワックス ● Arbor針葉樹白木用オイルワックス ● Arborドライワックス ● ベーシックオイル 	<ul style="list-style-type: none"> ● Arborガラスフィニッシュ 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウレタン塗装
日常のお手入れ		1.表面の塵やほこりを掃除機などで除去 2.基本は乾拭き(水拭きは避ける) ● 汚れを落としたい場合 軽微な汚れ: Arbor水性クリーナーワックスを使用 頑固な汚れ: サンディング・再塗装 ※詳しくはP253「シミや汚れの落とし方」を参照	1.表面の塵やほこりを掃除機などで除去 2.乾いた雑巾または固く絞った雑巾で水拭き(水気が残っている場合は乾拭き) ● 汚れを落としたい場合 軽微な汚れ: Arbor水性クリーナーワックスを使用 頑固な汚れ: サンディング・再塗装 ※詳しくはP253「シミや汚れの落とし方」を参照	1.表面の塵やほこりを掃除機や化学雑巾などで除去 2.固く絞った雑巾で水拭き ● 汚れを落としたい場合は、Arbor水性クリーナーワックスを使用
定期的なお手入れ	サイクル	一般:1年に1回を目安 重歩行:半年に1回を目安	—	一般:1年に1回を目安 重歩行:半年に1回を目安
	方法	1.表面クリーニング:表面の塵やほこりを掃除機などで除去 2.再塗装:仕上げに使用している同一の塗料を再塗装 *ベーシックオイルはArbor植物オイルを使用 3.乾拭き・自然乾燥:乾いた布で塗料を拭き取り、自然乾燥 ※詳しいメンテナンス方法は、P253を参照	基本的には不要ですが、塗装が摩耗しやすい箇所(椅子の下など)については、部分的に再塗装が必要	1.表面クリーニング:表面の塵やほこりを掃除機などで除去 2.ワックスがけ:Arbor水性クリーナーワックスを10倍に希釈し、雑巾を浸し、固く絞って全体を拭き掃除
注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ● 市販のワックスは使用しないでください。 ● 水拭きは毛羽立ちや白濁の原因となるため避けてください。 ● スチームモップ(水蒸気式クリーナー)は、木材の膨張や白濁の原因となるため厳禁です。 ● 薬剤を含む市販のお掃除用品は、変色など不具合の原因となるため使用しないでください。 ● 他塗料への変更はできません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市販のワックスは使用しないでください。 ● スチームモップ(水蒸気式クリーナー)は、木材の膨張や白濁の原因となるため厳禁です。 ● 薬剤を含む市販のお掃除用品は、変色など不具合の原因となるため使用しないでください。 ● 他塗料への変更はできません。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水を撒いてモップをかけたり、しっかり絞っていない雑巾での水拭き、スチームモップ(水蒸気式クリーナー)は、フローリングの膨張・反り割れの原因となるため厳禁です。 ● 化学雑巾をフローリングの上に長時間放置すると、フローリングが変色する恐れがあります。 ● メラミンスポンジなどは、塗装膜を傷めてしまうので使用しないでください。 ● 市販のクリーナーやワックス等をご利用になる際は、必ず使用上の注意をよく読み、目立たないところで試してからお使いください。 ● 他塗料への変更はできません。

浸透性塗料のお手入れポイント

再塗装の頻度について

一般の住宅であれば年に一度で十分です。数年続けて定期的に再塗装を行っていくうちに、徐々に塗料がなじみ落ち着いてくるので、その後は様子をみながら少しずつ再塗装をする期間を延ばしていても問題ありません。頻繁に塗りすぎてしまうとべたつきの原因となり、かえって汚れが付きやすくなってしまう場合もあるのである程度の期間を空けて行いましょう。

塗装をする範囲について

よく歩く部分や拭き掃除をする部分は塗料の効果が薄れやすいので、そのような部分を重点的に行いましょう。家具の下やお部屋の隅の方など、塗装がとれにくい

部分は、大きな家具を移動してまで床全面を再塗装する必要はありません。無着色の塗料であれば、極端な塗りムラが出ることはありませんが、色、ツヤの違いが気になる場合は全面に再塗装を行ってください。

上手に塗るコツ

塗装の失敗の大半は、塗布量が多すぎたり、乾拭きが不十分によるべたつきです。きれいに仕上げるには、塗り過ぎに気を付けて少量を薄く擦り込むこと、べたつきがなくなるまで、しっかりと乾拭きを行うことを心がけましょう。木材が吸収できる塗料の量には限りがあるため、塗布量が多すぎるとべたつきの原因になってしまい、汚れが付きやすくなるので逆効果です。

浸透性塗料で仕上げたフローリングのお手入れ詳細

定期的なお手入れの工程 3 STEP

対象:(P252表)浸透性塗料で仕上げたフローリング[1]

用意するもの

必要なもの	必要に応じてあると良いもの
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在お使いのフローリングの仕上げと同じ塗料 ● ウェス(Tシャツやシーツのはぎれなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ● サンドペーパー(紙やすり) #180(粗い)、#240~#320(細かい) ● サンドペーパーの土台 ● マスキングテープ ● 塗料を入れるトレイと塗料を移すスプーン

STEP 1 表面のクリーニング

塗料を塗る前に、日々の汚れや気になるシミを取り除きましょう。

1. 表面の塵やほこりを掃除機などで除去。
2. その他に気になるシミや汚れがある場合は除去しておく。

STEP 2 再塗装

クリーニング後、表面がしっかりと乾いたら再塗装していきましょう。

下準備: マスキングテープで巾木や建具枠などを保護することで塗料の付着を防ぐことができます。再塗装後は出来るだけ早くはがしてください。テープの粘着が残って表面がべたついてしまったり、接着面の塗料がはがれる原因となります。

1. 仕上げに使用されている塗料をトレイに移し替える。
2. ウェスを使って塗装していく。



テープと塗装面との境目をしっかりと押しやることで、塗料のにじみを防ぎます。

少量ずつ(ウェスの先端1cm分くらい)塗料を取って塗っていきま。分量に注意。

木目に沿って、薄く擦り込むように塗っていきます。

STEP 3 拭き取り・自然乾燥

再塗装後、表面に残った余分な塗料を拭き取っていきましょう。

1. 乾いたきれいなウェスで表面の塗料をべたつきがなくなるまで拭き取る。
2. 自然乾燥を行う。

各塗料の完全乾燥時間 ※樹種・塗布量によって異なります。	
Arbor 植物オイル	約24時間
Arbor 蜜蝋樹脂ワックス	約12時間
Arbor 針葉樹白木用オイルワックス	約12時間
Arbor ドライワックス	約12時間

*拭き取りをよく行えば、完全乾燥を待つことなく、歩くことができます。
*塗装後に拭き取りを行っても、時間が経過すると表面から塗料が吹き戻すことがあります。放置するとほこりがついたり、長時間べたつきが残ったりするため、再度ウェスを使い、乾拭きを行ってください。

最後に

使用したウェスはまれに自然発火する恐れがあるため、水に濡らして処分してください。
再塗装中やその後は、塗料のにおいが残るため、換気を行ってください。

シミや汚れの落とし方

軽微な汚れを落とす

表面を全体的に掃除したいとき、皮脂汚れや黒ずみなど、表面上の汚れを簡単に落としたいとき

方法: Arbor 水性クリーナーワックスを使う。

汚れの度合いに応じて水で希釈して使用するタイプです。

(Arbor水性クリーナーワックスについてはP249を参照)

頑固な汚れを落とす

Arbor水性クリーナーワックスでは落ちない頑固なシミ・汚れを落としたいとき

<P252表、浸透性塗料で仕上げたフローリング[1]の場合>

方法: サンディング・再塗装をする。

サンドペーパーを使用し、キズや汚れを木材ごと削って落とす最終手段。削りすぎるとムラになる可能性があるので注意。削った後は再塗装が必要。

■サンディング・再塗装の方法



- ① #180のサンドペーパーを使いシミ・汚れを削り取ります。サンドペーパーは木目に沿って動かしていきます。
- ② #240~320のサンドペーパーで木地を整え、表面をきれいにします。徐々に番手を細かくしていくときれいに仕上がります。
- ③ STEP2の再塗装の工程にいき、削った箇所仕上げと同一の塗料を塗装します。その後、STEP3(拭き取り・自然乾燥)を行う。

<P252表、浸透性塗料で仕上げたフローリング[2]

Arbor ガラスフィニッシュの場合>

方法1: 無水エタノールを使う。

無水エタノールを使用しても取れない汚れについては、方法2のサンディング・再塗装を行う(下記参照)。

方法2: サンディング・再塗装をする。

■サンディング・再塗装の方法

- ① サンドペーパーで削る(上記、■サンディング・再塗装の方法①・②を参照)。
- ② Arbor ガラスフィニッシュと付属のツヤ消し剤を10:1の割合で混合する。
- ③ 削った部分に塗料をハケで塗布する。塗装は、3回塗り(塗装間隔は60分以上空ける)を行う。
- ④ 表面に気泡の固まりや毛羽立ちが生じた場合は、サンドペーパー(#320)で削り落とす。
- ⑤ 3回塗りを行った後、完全乾燥は24時間。

*Arbor ガラスフィニッシュは性質上、空気に触れると固まりやすいため、使いぎれる適量をその都度ご用意ください。

*過度の重ね塗りは、表面の割れや、過剰なツヤの原因となることがございますのでご注意ください。その際は、サンディングをして、再塗装を行ってください。

9.こんなときどうする!?(お引渡し前)

(1) 施工後に市販のワックスをかけてもいいですか?

<浸透性塗料>

市販のワックスは、白濁や毛羽立ちなど不具合の原因となることがありますので使用しないでください。

<コーティング系塗料>

商品によっては、ツヤ感が変わることがありますので、目立たないところでお試しいただくか、Arbor水性クリーナーワックスをご使用ください。

(2) 引渡し前にもう一度仕上げと同一のオイルやワックスを塗ったほうがいいですか?

<浸透性塗料>

塗装済みの商品であれば、通常再塗装の必要はありませんが、ウォールナットなど、色の濃い樹種に関しては施工直後、素材の性質上、逆目部分が白濁して見えやすいため、再塗装していただくことをおすすめします。なお、再塗装の際は、塗りすぎに注意し、少量を擦り込むように塗り、十分に拭き取ってください。塗装後も白濁が残る場合は、気になる部分を#240~320程度のサンドペーパーで木目に沿うように研磨し、仕上げと同一の塗料で再塗装してください。なお、汚れが目立つ場合については「(8) 表面の汚れを落としたい」の項目をご参照ください。

注) Arbor植物オイルの商品の上に一度Arbor蜜蝋樹脂ワックスを塗ってしまうと、オイルが浸透しないため、その後Arbor植物オイルの塗装ができなくなります。一度、Arbor蜜蝋樹脂ワックスへ切り替えた場合は、Arbor蜜蝋樹脂ワックスを使っのメンテナンスになりますのでご注意ください。



<コーティング系塗料>

汚れが目立つ場合はArbor水性クリーナーワックスでのクリーニングをお勧めします。

(3) 養生テープの跡が残ってしまった。

<浸透性塗料>

養生テープの跡が発生した場合、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240~320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の塗料で再塗装してください。



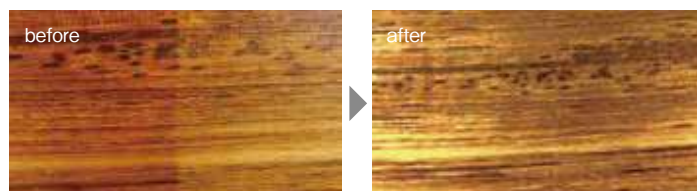
<コーティング系塗料>

基本的に、粘着力の弱いテープを使用し、早い段階ではがしてください。万が一、跡が気になる場合は、無水エタノールを使って落とすことができます。

(4) サッシ際など、養生されていない部分が日焼けしてしまった。

<浸透性塗料>

日焼けによって色の差が生じてしまった場合、色の境目の部分を10~20cmの巾で#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240~320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の塗料で再塗装します。対処直後は、色の差が少し生じますが、数週間も経つと色の差が自然になじんできます。完全になじむことは難しいので、防止するためにも養生の際に隙間を作らないことをお勧めします。サンディングの際、強く削るのではなく、軽くぼかす程度に行くと自然な仕上がりになります。



<コーティング系塗料>

表面がコーティングされていますので、補修は難しいですが時間とともに色がなじんできます。

※上記、2種類とも完全になじませるのは難しいので、養生時に隙間を作らないことをお勧めします。

(5) 塗装後の床のべたつきがとれない。

塗装後の乾拭きが不十分か、塗布量が多すぎることが原因の「吹き戻し」の可能性あります。

まずは、再度べたつきが無くなるまで乾拭きを行ってください。それでもべたつきが取れない場合は、無水エタノールを使用してください。

(6) すり傷ができた。

<浸透性塗料>

浅い傷の場合は、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240~320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の塗料で再塗装してください。深い傷ができた場合は、P263の「(11) 割れが生じてしまった」をご参照ください。



<コーティング系塗料>

表面がコーティングされていますので、サンディング等による補修はできません。補修業者などによる、コーティング系塗料の再塗装(補修)をお勧めします。

(7) 凹み傷ができた。

<浸透性塗料>

凹んだところに濡れタオルを置き、その上からアイロンを当てると、ある程度は元に戻ります。特に、スギやパインなど柔らかい樹種は、より凹み傷が戻りやすく効果的です。目立たなくなってきたら、しっかりと乾燥させた後、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240~320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の塗料で再塗装してください。深い傷ができた場合は、「(11) 割れが生じてしまった」をご参照ください。

*傷部分に先端の細い針で数箇所穴をあけてからアイロンを当てると、より効果があります。
*木がえぐれていたり、欠けてしまっている場合は補修を施しても戻らない可能性があります。気になる場合はパテを使用して補修を行ってください。



凹み傷がついたフローリング(スギ)

傷の上に濡れタオルを置きアイロンを当てる。この作業を、凹み傷がある程度元に戻るまで、様子をしながら数回繰り返します。

乾燥後にサンドペーパーをかけ再塗装を行うと、凹み傷がほとんど目立たなくなります。

(8) 表面の汚れを落としたい。

<浸透性塗料>

水拭きは厳禁です。乾拭きもしくは、Arbor水性クリーナーワックスで汚れを落としてください。それでも落とせない汚れの場合は、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240~320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の塗料で再塗装してください。

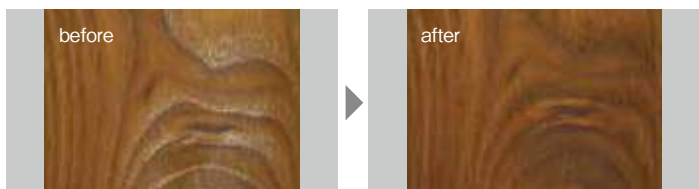
なお、補修当初は再塗装された部分と、その周辺部分とは色やツヤなどに微かな違いが生じることがありますが、経年変化によって次第になじんでいきます。

<コーティング系塗料>

Arbor水性クリーナーワックスでの汚れ落としをお勧めいたします。

(9) 木目にプラスターボードの粉が入った。(浸透性塗料の場合のみ)

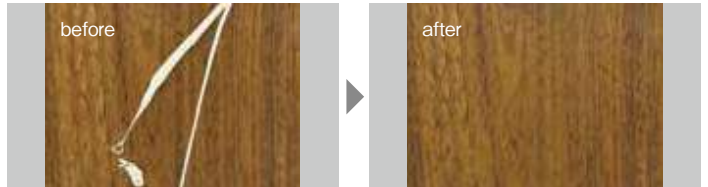
プラスターボードの粉が深く入り込んでいない場合は、エアーで簡単に吹き飛ばすことができます。エアーを使ってもダメな場合は、硬めの歯ブラシで粉やほこりを掻き出し、その後仕上げと同一の塗料で再塗装してください。それでも難しい場合は、粉やほこりをサンドペーパーで削り取り、仕上げと同一の塗料で再塗装をすることで補修できます。



(10) 表面に接着剤がついてしまった。

<浸透性塗料>

ウレタン樹脂系の接着剤が付着した場合は、スクレーパーなどで比較的簡単に除去できます。それでも除去できない場合は、サンドペーパーで周囲をぼかしながら削り取り、その後仕上げと同一の塗料で再塗装してください。



<コーティング系塗料>

- 付着直後の場合: コニシ社製「ボンドふき太郎」(拭き取りシートタイプ)などをご使用ください。
- 付着から時間が経っている場合: コニシ社製「はがし液KUX」などで拭いてください。

注) コニシ社製以外の接着剤をご使用の場合は、各製造メーカーにご相談ください。

注) コーティング系塗料で仕上げた商品であっても、木目などに接着剤が残ることがありますので、拭き取りを行う際は、目立たない箇所を試してから行ってください。また、あまり強く拭くとツヤが変わる恐れがありますのでご注意ください。

注) シンナーでの拭き取りは、塗膜を傷める恐れがあるので使用しないでください。

(11) 割れが生じてしまった。(浸透性塗料の場合のみ)

補修箇所の色に調整したファーモウッド・パテを隙間なく擦り込み、乾燥させた後、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240~320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の塗料で再塗装してください。

(12) 水拭きや湿気による毛羽立ちが起こってしまった。

(浸透性塗料の場合のみ)

浸透性塗料で仕上げた商品は、水拭き厳禁です。もし、毛羽立ちが起こってしまった場合には、ストッキングにウエスを詰め込んだもので擦ると取り除くことができます。ストッキングの微細な網目が毛羽立ちを取り除くことに適しています。また台所用のスポンジの硬い面やスチールウールでも同様の効果が期待できます。

(13) 水シミなどの白濁が起こってしまった。

(浸透性塗料の場合のみ)

白濁した部分をArbo水性クリーナーワックスや無水エタノールで拭き取ると取れる場合もあります。それでも取り除けなければ、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240~320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の塗料で再塗装してください。